

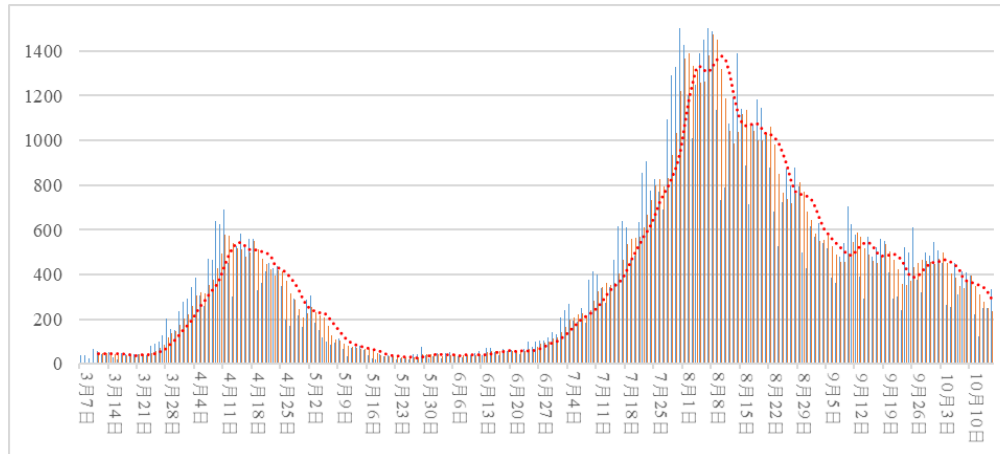
新型コロナウイルス感染症  
流行シミュレーション作成事業  
結果（2020年10月19日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

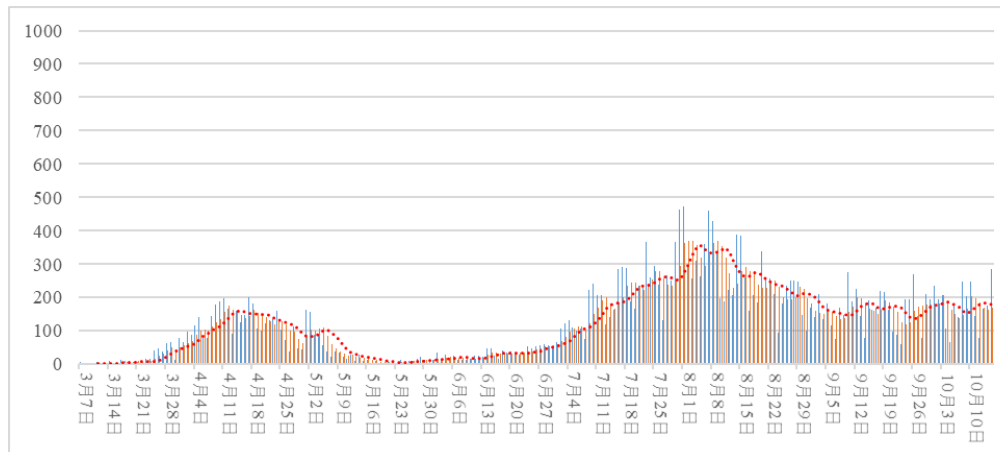
# I 流行のリアルタイム評価

- 全国では，2回目のピーク以降，減少が続いている。東京は9月以降100-200件で推移している。

全国



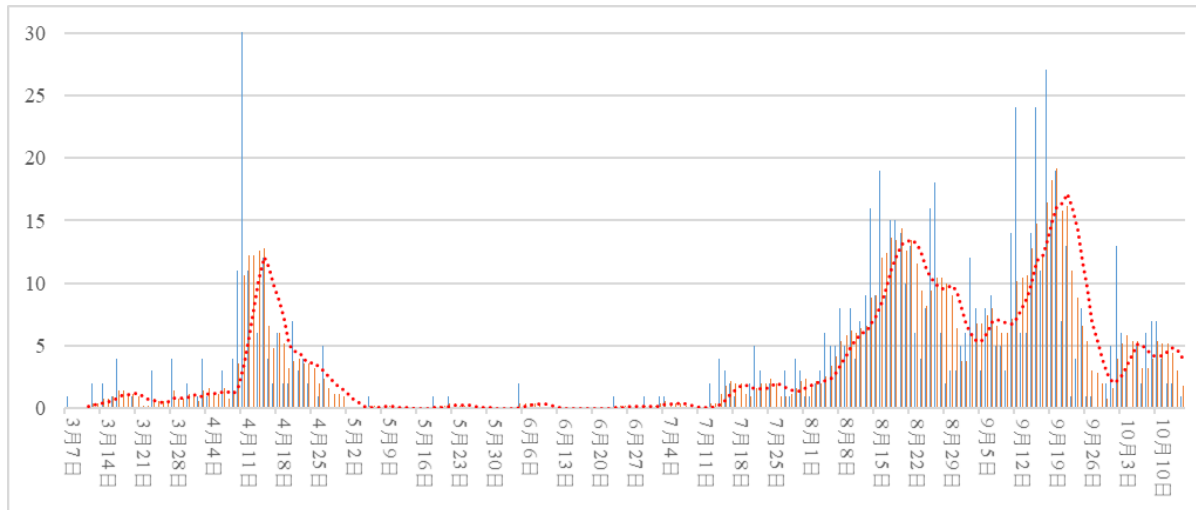
東京



青：報告者数  
橙：移動平均（5日）  
破線：橙の近似曲線

# I 流行のリアルタイム評価

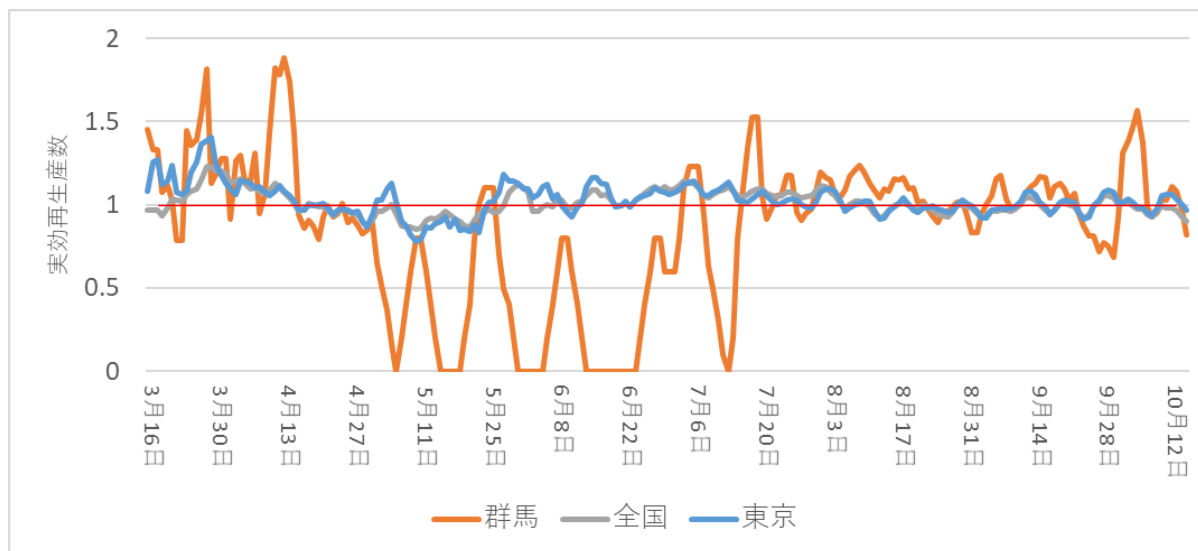
- 群馬県では，9月のクラスターの報告以降，段階的に減少を認める。



青：報告者数  
橙：移動平均（5日）  
破線：橙の近似曲線

# I 流行のリアルタイム評価

- 実効再生産数は、現在全国・東京共に1を下回っている（最新値：全国0.90，東京都0.97）。全国の動きは東京都とほぼ一致していた。
  - 群馬県はクラスターの影響で一旦増加したが、現在は1を下回っている（群馬県0.82）。
- ※1を下回ると流行は縮小していると判断できる。



# まとめ

- PCR陽性者等の報告数をみると，全国の報告数の約7割は東京都の報告が占めていた。つまり地方の報告件数はかなり減少していた。
- 実効再生産数は，全国・東京都・群馬県すべてにおいて1を下回っていた。今のところ，流行は収束傾向にあると判断できる。
- しかし世界的にみると感染者は欧米で増加中である。わが国でも再び増加する可能性があるため，引き続き感染対策を継続することが必要である。